



# 海洋スタートアップが描く将来像

2026年2月6日 成長戦略会議(海洋WG用)

株式会社 Oceanic Constellations  
(呼称:OC、オーシャニック・コンステレーションズ)

# 事業紹介：OCが提唱する「海洋無人機サービス」とは？

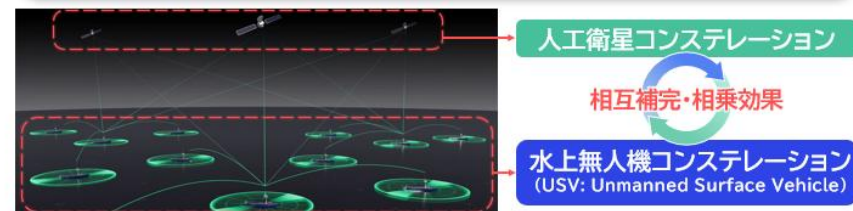
実証機(アルファ01号機) 鎌倉海域における密漁監視目的の航走風景



統合実証機(ベータ01号機) 日本郵船グループ京浜ドック内、OC製造現場風景



## 海洋無人機をセンサー群としてデータサービス化



当社(呼称:OC、オーシャニック・コンステレーションズ)は、

### 1. USVを製造・設計・量産化し、



### 2. 群制御・AIによりネットワーク化し、



### 3. 「海の衛星群」による海洋課題解決を実現





# OCが進める、戦略17分野への海洋スタートアップとしての貢献

当社(呼称:OC、オーシャニック・コンステレーションズ)の主要事業ドメインは、

## 「デュアルユース」×「海洋」×「無人機」

戦略17分野中7分野に横断的な波及力

### ✓ 海洋

不可欠性の高いセンサ類量産化と社会実装による国際競争力拡大

### ✓ 防衛

自律性の獲得:国産ベースの先進的無人アセット防衛能力を獲得

### ✓ 航空・宇宙

需要の創造:洋上射場を主眼においた、宇宙-海洋の社会実装連携

### ✓ 造船

技術高度化:無人化技術による製造プロセス・自律航行の高度化

### ✓ 資源・エネルギー安全保障・GX

手段の提示:無人化技術による海底資源探査・獲得の推進




### ✓ 防災・国土強靱化



迅速性の実現:無人アセットによる早期・迅速状況可視化を実現

### ✓ AI・半導体

出口需要の確保:海洋特化AIの社会実装に向けた学習環境の提供

## (米) 政府調達・事業化支援によるデュアルユース・スタートアップの興隆

主要デュアルユース企業	創業時期	成長期の政府調達・事業化支援策	2026年現在の規模
 <b>SPACEX</b>	2002年創業 未上場	NASAによるISS補給の技術開発〜サービス調達までの大型政府調達(約20億ドル)を獲得。 ⇒創業4年目から大規模支援	評価額: 約125兆円(8千億米ドル) 2026年に上場準備との報道
 <b>ANDURIL</b>	2017年創業 未上場	国防総省および米空軍・特殊作戦軍からR&D契約、ネットワーク化システム等の政府調達を獲得。 ⇒創業4年目から大規模支援	売上高: 約1,560億円(10億米ドル) 評価額: 約4兆7千億円(305億米ドル) ※いずれも最近資金調達時の報道ベース
 <b>SARONIC</b>	2022年創業 未上場	国防総省から、プロトタイプUSV開発、性能テスト、調達契約を複数プロジェクト並列で獲得。 ⇒創業3年目から大規模支援	売上高: 約20億円(1,250万米ドル) 評価額: 約6,240億円(40億米ドル) ※いずれも最近資金調達時の報道ベース

	創業初期	成長期	安定期
	デュアルユース向け政府調達・事業化支援の充実  豊富な人材・資本エコシステム	広範な政府調達による社会実装支援	ユニコーン規模の事業者が複数誕生
	デュアルユース創業が未だ希少  大学連携の研究開発支援は充実	政府調達・事業化支援に乏しい  社会実装フォーカス支援の仕組み不足	大規模化が実現しにくく、産業ダイナミズムに乏しい

### 【当社の課題意識】

- 米国筆頭にグローバルのデュアルユース・スタートアップはすべて成長期における大型政府調達をバネとして成長と産業創出を実現しているが、日本国内での成功例に関する認知度が低く、同様の支援枠組みが存在しない。
- 「デュアル性」において、防衛のみならず、広く資源・経済安全保障に波及力があるのが、「海洋無人機」×「デュアルユース」分野の特徴

- ほぼすべての海洋USVスタートアップが、デュアルユースである点が共通する特徴。
- 当社の差別化要因たる長期滞留・群制御による多点展開・量産を明確に実装した企業は不在。

企業名	所在国	地域	設立	min.Size (m)	長期滞留 (再エネによるエネマネ)	群制御下での 多機同時展開	ユースケース			量産志向	政府補助/協業
							保安	民用	学術		
Oceanic Constellations	Japan	Asia	2023	3.0	○ 12か月	○	○	○	○	○	○
Sail Drone	U.S.	Americas	2014	7.0	○ 12か月	X	◎	○ 洋上風力有	○	○	○ Navy
Liquid Robotics	U.S.	Americas	2007	3.1	○ 12か月	X	◎	○ 洋上風力有	○	○	○ 米国・インド政府補助金（海中防衛プロジェクト）
SeaSatellites (Seasats)	U.S.	Americas	2020	3.0	○ 6か月	X	◎	○ 洋上風力有	○	○	○ Navy
Saronic technologies	U.S.	Americas	2022	1.8	X	○	◎	○	○	○	○ DoD、Navy
Ocean Power Technologies	U.S.	Americas	1984	2.8	X	X	◎	○ 洋上風力有	○	?	○ エネルギー省（ブイ）、Navy/NOAA（USV）
Metal Shark	U.S.	Americas	2005	7.0	X	○	◎	○	○	○	○ 海軍、Navy、法律執行機関、消防署
L3 Harris	U.S.	Americas	1895	5.0	X	X	◎	○ 洋上風力有	○	○	○ Missile Defence Agency
Open Ocean Robotics	Canada	Americas	2018	3.6	○ 数か月	X	○	◎ 洋上風力有	◎	○	○ NOAA（米国海洋大気庁）
Marine Tech	France	Europe	NA	2.0	X	X	○	◎	◎	?	○ 政府プログラム（海岸海底調査）
HydroSurv	U.K.	Europe	2011	2.8	X	X	○	◎ 洋上風力有	○	○	○ Innovate UK/DEFRA = 環境担当省庁（海藻観測）
Orsted	Denmark	Europe	2006	9.0	○ 12か月	X	○	◎ 洋上風力	◎	○	○ 株式の過半数を政府が保有
Unmanned Survey solution	U.K.	Europe	2014	1.4	X	X	○	◎ 洋上風力有	◎	○	○ Innovate UK(海上小型USV枠)
Phillipines' USV company	Phillipines	Asia	?	?	X	X	○	○	○	?	○ Navy
Zycraft USV Pte Ltd	Singapore	Asia	2011	5.9	X	X	○	○	○	?	○ 政府プログラム（海洋安全保障）
Ocean Alpha	China	Asia	2010	1.6	X	○	○	○ 洋上風力有	○	○	○ 政府、珠海市プロジェクト・無料の試験場等

USは軍事が主

EU他は環境が主

アジアはPlayer少

## 宇宙戦略からの学び

- 国が構想する**宇宙システム全体像と構築スケジュールを公開・高頻度更改**し、**国家機能の一部を民間事業者が担う官民連携**を明確に示すことで、民間事業者の宇宙産業参入が拡大
- 技術開発進捗を踏まえた集中投資による民間事業者の非連続的成長**と、すそ野拡大によるバリューチェーン強靱化を通じた人材・産業育成の加速

2000年～  
国家機能としての  
宇宙システム整備開始

国際情勢を背景に、**R&Dから国家機能として宇宙システムを整備する方向へ変換**

- IGS、みちびき等国家戦略に基づく宇宙システムを構成する衛星開発開始
- 関連省庁横断で宇宙基本計画を策定・公開

2010年～  
政府宇宙システム/New Spaceによるアプリケーション創出開始

宇宙システム構築に伴う**宇宙アプリケーション創出とNew Space(宇宙SU)の成長**

- 工程表に基づく宇宙システム構築の推進
- 政府による宇宙アプリケーション創出に支えられた宇宙SUの出現・成長

2020年～  
政府アンカーテナンシーによる産業拡大とバリューチェーン強靱化

宇宙戦略基金と政府需要による**民間事業者の出口戦略確保**、及び**バリューチェーン強化による産業拡大**

- 安全保障を中心とした政府需要による民間事業者の調達加速。出口を踏まえた民間投資の拡大
- 宇宙戦略基金による集中投資での民間事業者育成、及び産業すそ野の拡大。

## 海洋戦略における適用可能性

- 複数省庁に横断する需要を集約し、「政府主導の整備/民間主導のサービス調達」の目標明確化を進め、工程表として公開**することで、**海洋SU・民間事業者の投資拡大**を引き出せるのではないかと。
- 民間サービス調達に繋がる事業化を想定した**戦略的なプロトタイプ契約**(米COTS/CRS)により、**海洋産業のサービスモデル確立、バリューチェーン強化による裾野拡大**を目指すことができないか。

省庁横断での需要集約

民間活用分野の明確化

戦略的プロトタイプ投資



# 現状整理と海洋無人機分野の「勝ち筋」に向けて

- 官民投資ロードマップに対する、弊社からの提言は以下の通りです。「**社会命題からの逆算志向による早期社会実装**」を主眼としています。

マ  
ク  
ロ  
環  
境

## 現状認識と目標

### 【海洋無人機(USV/AUV)時代の到来】

1. 海洋無人機分野の横断展開がグローバルに進展。覇権国が不在、かつ市場がローカル⇒グローバルと移行することから、地政学的に近いアジア市場を中心に日本が勝つ領域

### 【多数・小型化・デュアルユース傾向】

2. 無人化による恩恵は省人化コストカットに加えてアセットの小型化・損耗耐性(attributable)を促進。各国事業者がデュアルユースで開発進行中

### 【目標 = 自律性・不可欠性の両面獲得】

3. 日本が強い宇宙・造船・防衛を中心とした戦略17分野に横断した産業連携により、海洋無人機の世界市場のトップを狙える
4. 日本をUSV生産拠点とし、国産自律性獲得と造船文脈の再興隆、「USV×造船」を強みとして、不可欠性高いポジションをグローバルに獲得する

### 【日本連合による技術開発と知財戦略】

1. 日本が強い造船・ソナー・太陽電池等技术を保有する大企業と連携したUSV開発と世界Topレベルの特許網構築

### 【デュアルユース想定技術・事業開発】

2. 宇宙産業に倣う、防衛需要・民間需要双方を獲得するためのプラットフォーム共通化開発およびビジネスモデル構築

## 基本戦略と官民連携の理想形

### 【「分野横断化事業」への重点投資】

1. 特定の一技術でなく、分野横断での波及力・プラットフォーム化を志向する事業者を育成
2. 工程表を高頻度に更改し、民間活用分野を明示することで、民間投資・事業者創出を促進

### 【政府調達による量産化支援】

3. プロトタイプ段階を超えた戦略分野事業者につき、その成果を確認次第、機動的に政府調達を実施。ゲート審査により最終的な有用性を判断する「ファスト・レーン」が必須

### 【具体像の一例】

4. スタートアップが大企業とマッチアップし、量産化工場設備の立上げ戦略を策定するケースにおいて、20-30億円規模の官投資を実行
5. 民投資が1/4~1/3程度を負担
6. 早期社会実装を狙う枠組として、**3ヶ年以下**の投資枠組みとし、**短期・高TRL**を条件とする

### 【プロトタイプを可能とするME/DE】

1. "MARDS"を用いた、ミッションエンジニアリングにより、Sim⇒実機実証と予算・スケールに合わせた段階的なプロトタイプが可能

### 【社会実装を想定した量産戦略】

2. 開発初手から量産を想定したサプライチェーン構築と、造船会社との提携によるプロダクトライフサイクル構築を推進

## 政策手段と事業者側の長期見通し

### 【既存政策パッケージの拡張】

1. スタートアップ随契制度の拡大運用
2. 経産省DTSUや各省SBIR制度における対象ケースに左記具体像を入れる形での拡張

### 【新規政策パッケージ】

3. 戦略17分野におけるプロトタイプ投資支援を、**具体的な社会課題及びその解決用途を明確化させる条件下で推進**。特に、分野横断化事業、短期・高TRLの社会実装を重視
4. 国際連携・グローバル展開に強みをもつ大企業が、スタートアップの海外展開を支援するケースへの支援プログラムの新設

### 【規制緩和に関する取組み】

5. 遠隔操縦小型船舶ガイドラインを、技術進歩に合わせる形で発展的に再検討
6. 領海外海洋における電波利用の柔軟化

### 【社会命題型スタートアップ】

1. 技術課題ではなく、社会命題解決を最上位概念として設立。

### 【規制対応及び世界市場を見据えた戦略】






2. 本邦独自のミニポート規格に準拠した上で最速の社会実装を実現。SWを中心としたスケールアップ余地を確保し、USV大型化へ対応

個  
社  
戦  
略

## 【参考】海外競合の資金調達状況とOCの比較

- 海外USV事業者の資金調達大型化が進展。開発スピード・規模が直近急速に拡大。
- OCは、日本国内におけるリーディングプレーヤーを志向するが、グローバルでは劣位からの競争環境に突入していく。
- 今後の海外展開・事業成長を見据えて、規模感ある資金調達と政府調達による成長期支援が必須と認識。

USD/JPY = 150円で換算

事業者名	所在地	資金調達ラウンド			直近調達金額 (累計調達金額)
		シリーズA	シリーズB	シリーズC	
 SAILDRONE	米国	2016/9 約21億円	2018/5 約90億円	2021/10 約150億円	約150億円 / シリーズC (累計 約261億円)
 seasats	米国	2022/11 2025/2 約30億円			約15億円 / シリーズA (累計 約32億円)
 SARONIC	米国	2023/10 約83億円	2024/7 約263億円		約263億円 / シリーズB (累計 約345億円)
 XOCEAN	欧州/米国 /豪州	2021/9 約12億円	2025/1 約173億円		約173億円 / シリーズB (累計 約185億円)
 OCEANIC CONSTELLATIONS	日本	2025/6 17億円	2026/1 20億円		17億円 / シリーズA 20億円 / シリーズB-1 (累計 約40億円)





# ***OCEANIC*** ***CONSTELLATIONS***

<https://www.oceanic-constellations.com/>





# 免責事項

- ・本資料に掲載されている情報は、細心の注意を払って掲載しておりますが、その正確性、完全性、有用性、安全性等について、一切保証するものではありません。
- ・本資料に掲載されている情報のうち、過去または現在の事実以外のものについては、現時点で入手可能な情報に基づいた当社の判断による将来の見通しであり、様々なリスクや不確定要素を含んでおります。したがって、実際に公表される業績等はこれら種々の要因によって変動する可能性があります。
- ・本資料は当社の著作物であり、著作権法により保護されております。当社の事前の承認なく、本資料の全部もしくは一部を引用または複製、転送等により使用することを禁じます。

問合せ先：

株式会社 OCEANIC CONSTELLATIONS

([press-communication@oceanic-constellations.com](mailto:press-communication@oceanic-constellations.com))